そっちの人

アリス、ヘレナ、ロイ

Level 3

May 2020

文: ロイ　アリス　ヘレナ

絵: アリス

出典：Google Maps

7 ページ目:

image capture: Dec 2009 @2020 google

image capture: Jun 2013 @2020 google

image capture: May 2019 @2020 google

9 ページ目:

image capture: Apr 2015 @2020 google

image capture: Apr 2018 @2020 google

image capture: May 2019 @2020 google

11 ページ目:

image capture: Mar 2014 @2020 google

image capture: Mar 2015 @2020 google

image capture: May 2019 @2020 google

13 ページ目:

image capture: Jul 2013 @2020 google

image capture: Apr 2018 @2020 google

image capture: May 2019 @2020 google

2011 夏

夏紀は、夕方の東京 の道を歩いていた。

彼女は、東京 大学の一年生だった。子供の時からいい子と呼ばれていた彼女は、実は大きな秘密が一つあった。それは、 男 の人でなく、 女 の人が好きだということだった。日本の社会では、アメリカと違って、同性愛は大体変なことだと思われていた。だから、子供の時から、夏紀は自分が変だと思って、他の人と話すことができなかった。でも、時間が経つにつれて、彼女は英語がどんどん 上 手になって、インターネットで調べてみたら、同性愛は、実に悪いことじゃないと気がついた。大学に入ってから、友達から新 宿 二 丁 目はLGBT文化が集まる 所 だということが分かると、ついにある金曜日の夜、夏紀は自分のコミュニティを見つけるために、その街に出かけた。

2015 秋

八月の終わり、蝉の声が小さくなった。

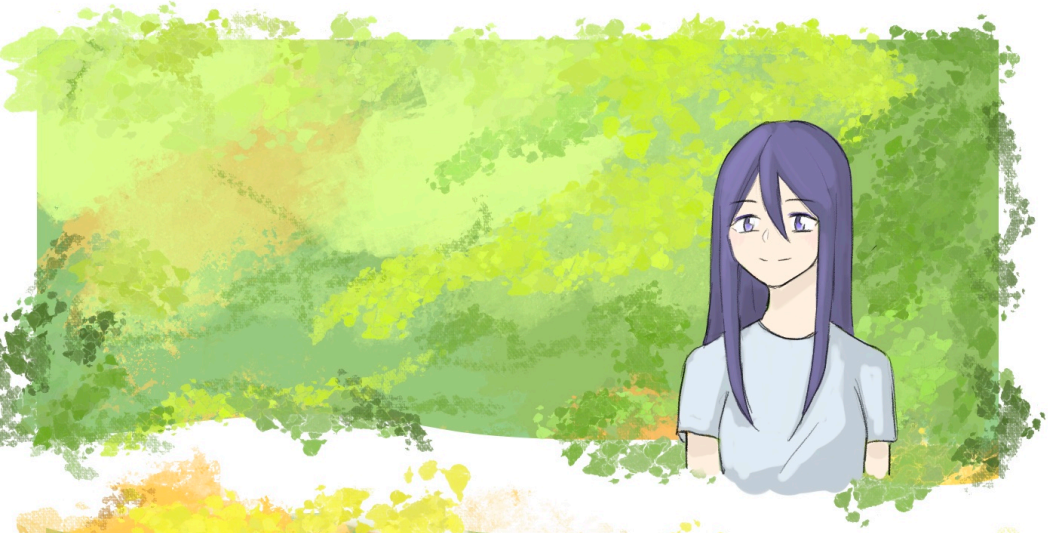
東 京 の夕方は、青い空の中で、火が燃えるみたいな雲があった。 遥 は冷たい空気を吸い込んで、初めて東京 のにぎやかな街を歩いた。小さい町で生まれた彼女は、１９年間ずっと東京 に行ってみたかった。 遥 は東京 の新 宿 で、色々なLGBTQコミュニティーがあると聞いていた。いつもBL（Boy’s Love）の 小 説や漫画を読むことが好きだった 遥 は、今回新 宿 二 丁 目を歩いて、「本物の同性愛者に会えるかなあ」と、とても楽しみだ。

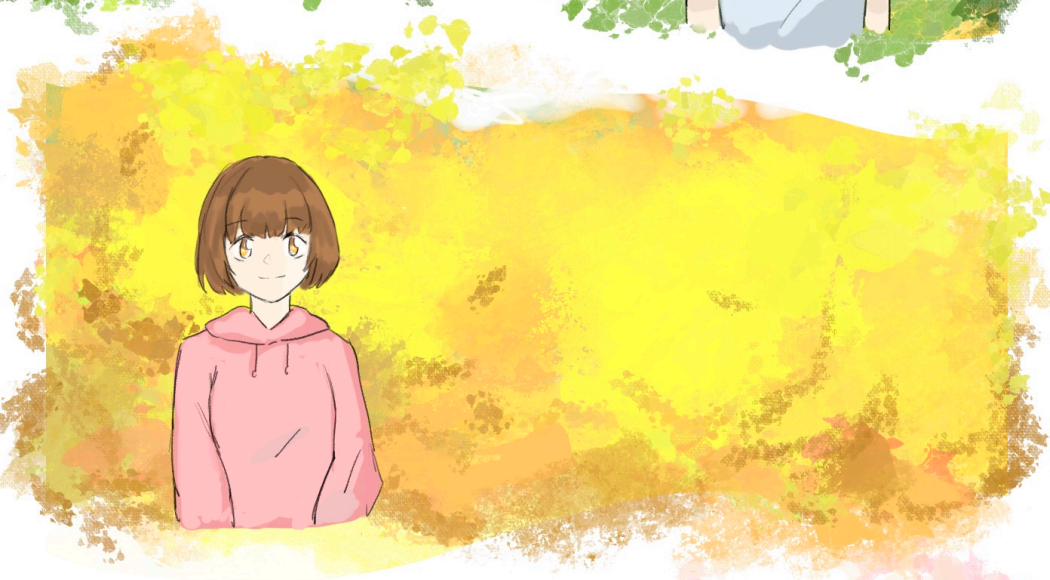
小 説と漫画の中で、 男 の同性愛者はみんな 美 しい顔をしている。現実はどうだろうか。 遥 は、まだ分からなかった。

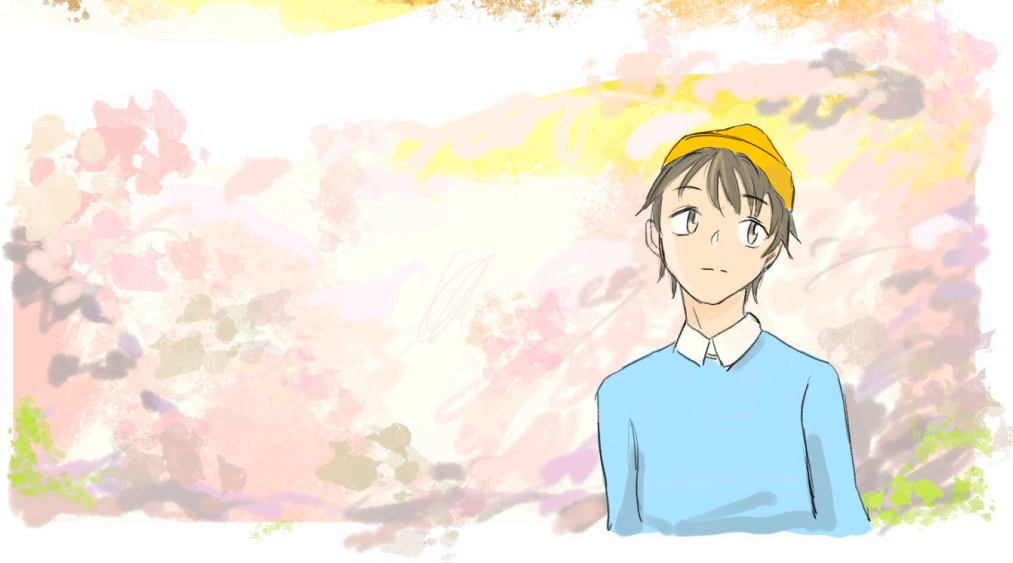
2019 春

「好きって何？」と思って、 彻 は悲しい顔をして、あてもなく歩いた。もう 十 六歳なのに、この質問に答えられない。さっき、改札の前まで友人を送ってあげたばかりだ。実は、ずっと前から、彼はこの友人に特別な感 情 を持っていた。「それは好きという気持ちだろう。」でも、友人は彼と同じ、 男 の子だ。

歩いているうちに、外は暗くなった。







夏紀：

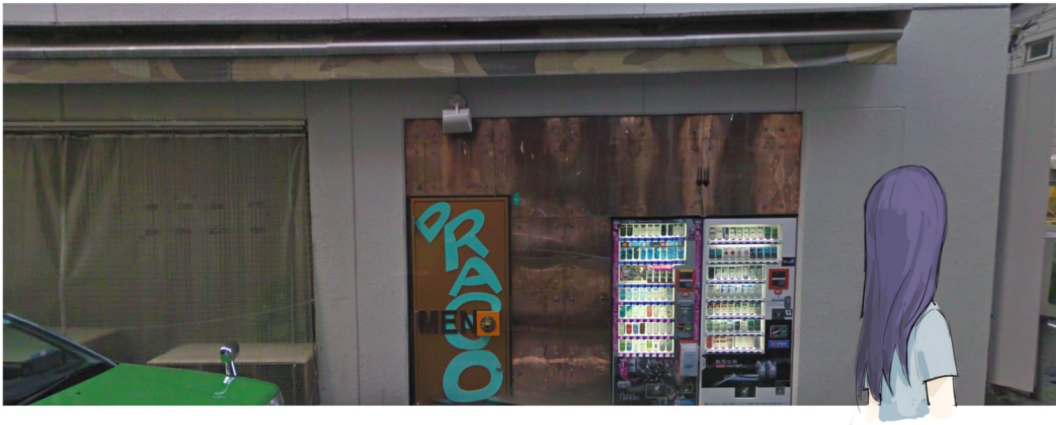
私が初めに気がついたのは、この「Dragon Men」が書いてあるバーだった。その他の標識は何もなかった。友達によると、このバーは二丁目の有名なゲイバーの一つだそうだった。私は「字が青いから、夜はちょっと見にくいかなあ」と思った。バーの前と中にはたくさん外国人がいるから、日本人だけじゃなくて、外国人の中にも人気があるというわけだ。

遥：

目の前のバーは、「東京 龍男酒場」と言う有名なゲイバーだ。橙色のドアの上に「Dragon Men」と大きくて書かれていた。「龍男」の文字が書かれている燈籠もあった。（「龍男」というのは、龍の男という意味だ。）私は興奮で緊張していた。「どうしよう...入ってみようか。」と考えたが、ここは未成年が入ってはいけないようになっていた。私は窓からバーの中をのぞいてみて、びっくりしちゃった。同性愛者の男達は漫画のキャラクターとは全然違った。みんな美形じゃなくて、ただの普通の人々だった。

彻：

前の店は、虹の色の提灯がついていた。その提灯の一つには「東京龍男酒場」と書いてあった。あっ、これは有名なゲイバーじゃないか。ゲイバーを見たのは初めてだ！面白い。でも、未成年で入れなくて残念だった。その代わりに、写真を三まい取った。


DRAGON
MEN

DRAGON
MEN
¥200
コインロッ
DRAGON
K-2318

DRAGON
MEN
¥200
コインロッカー

夏紀：
道をまっすぐ歩くと、「Bar Gold Finger」という文字が大きく書いてあって、下には「Women Only」と書いてあった。「これはレズビアンバーに違いない！」私は胸が踊って、小声で話してしまった。「このバーはこんでいるようだから、中に私みたい人がたくさんいるはずだ」と思って、私は初めて、自分が一人じゃないという気持ちを感じた。でも、バーの標識は英語しかなかったから、外国人向けの所だったかもしれない。入って見たかったけど、まだ二十歳じゃなかったので入れなかった。残念だったけど、将来、きっともどってくるつもりだ。

遥：
私は早々に東京 龍男酒場を去って、この街の奥に行くと、左手にきれいな店が見えた。ピンクの燈籠があって、同じ色の桜もドアの近くに立っていた。「これもゲイバー？きれいすぎるじゃない…」と思った。「Vacancy for Women」という大きな標識が少しだけ見えた、そして「Women Only」という標識もあった。ここは女性同性愛者のバーなんだ！私はあまり女性同性愛者を意識したことがなかった。LGBTQコミュニティーには、ゲイばかりいるというわけじゃなく、もう一つの性もあるんだなあ…

彻：
前には、きれいな喫茶店があるそうだ。あっ、違う。喫茶店じゃなくて何だろうか。店の壁には、「Some people are Lesbians」とか、「Girl meet girl」とか、「The future is female」などの文が英語で書いてあった。まじ？？これもゲイバーだろう。男の人は入ってはいけないはずで、これは女性同性愛者が集まって知り合うことができる場所だ。それに、「Be yourself」や「Equality--always」などの励ましのメッセージも書いてあった。外国人が分かるように全部英語で書いてあるんだ。なるほど、同性愛は国際的な話題だ！いいなあ、僕の心は暖かくなるような気がした。

BAR
GOLD FINGER
WOMEN ONLY
http://www.goldfingerparty.com

WOMEN
YES, WE ARE
OPEN

GOLD FINGER
GIRL MEETS GIRL
EQUALITY
SATURDAY NIGHT FEVER
Ladies Only
Girl meets Girl
Be Yourself
GOLD FINGER
SOME PEOPLE ARE LESBIANS. GET OVER IT!
Since 1999 Gold Finger PARTY
BE MY GIRLFRIEND

夏紀：

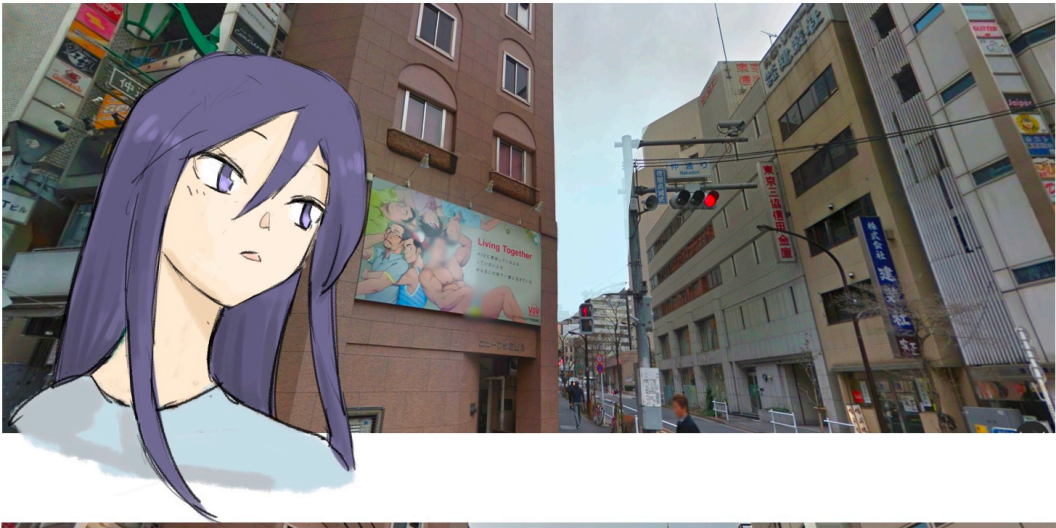
次の信号に、大きなHIVについて標識があった。赤色で「Living Together」と書いてあって、下に日本語で街のみんなはHIVがあってもなくてもいっしょに生活できるようにと願っているメッセージを表していた。その他にも、可愛いゲイらしい男性達がいっしょに楽しんでいる漫画が描いてあった。楽しそうだなあ。こんな教育のために作られた広告は、大切だと思った。

遥：

右に行くと、大きな標識が見えた。「定期的にHIV検査を受けましょう」という文字と二人の男の人が抱き合っている絵が描かれていた。BLが好きな私は、「その二人は絶対に兄弟ではなく、恋人だ」と思った。その絵のスタイルはBL漫画のスタイルじゃなくて、教科書みたいだ。私は、同性愛者はいつもHIV患者になると思われていることを知っている。でも本当なのだろうか？

彻：

女性のバーを右へまっすぐ行って、デパートの壁に大きなサインが貼ってあった。白色で「HIV≠AIDS」書いてあった。このサインの大きさと考えると、マイノリティじゃなくてみんなと関係あることだというイメージも伝えていた。男の人の写真も絵もあって、普通の生活し続けるためにみんなは心配しないでHIVテストをしようとアピールしている。この町は本当に面白いね。どうしてセクシュアル・マイノリティについて、標識がそんなに多いのだろうか。


Living Together
東京三協信用金庫
株式会社

定期的にHIV検査を受けましょう。
GET TESTED FOR HIV.
DO IT REGULARLY.
ニューフタミビル
東京三協信用金庫

ViiV
HIV≠AIDS
今は、治療がある。だからこそ、HIV検査に行こう。
いままでと変わらない日常生活のために。
HIVマップ

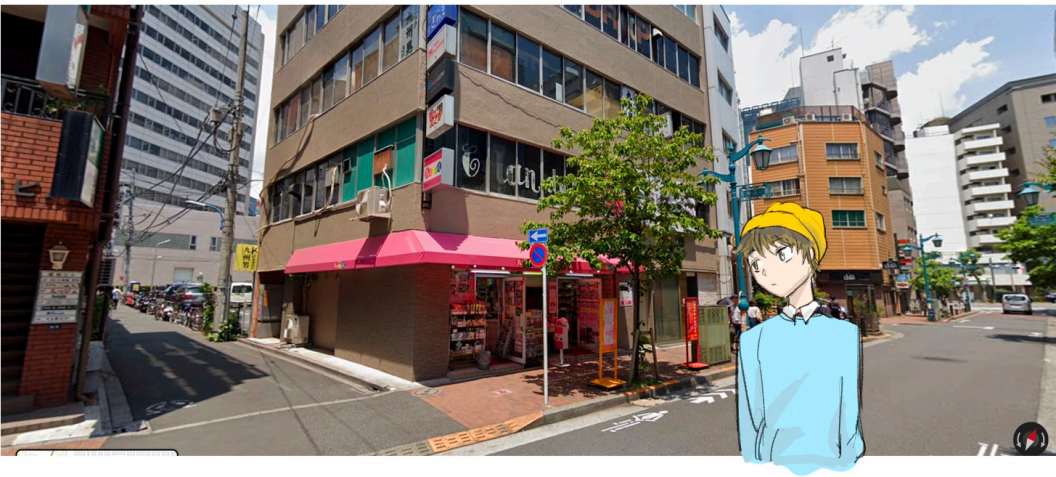
夏紀：
まだ街を歩いていた時、突然、ピンクの雑誌店に着いた。店の壁には、かっこいい男の人の写真があった大きなゲイ向けの雑誌の広告があった。レズビアン向けの雑誌じゃなさそうで、ちょっと残念だった。こんな広告があれば、レズビアンコミュニティは人々にもっとよく知られるようになるかもしれない。私のコミュニティはもっと認められて欲しい。

遥：
歩き続けて、遠くてピンクの店を見た。「この色は女性向けだか？」
私はそう思って、近くに行った。
「うわー！」
大きな裸の男のポスターは、その店の壁に貼り付けてあった。突然、それを見て、私は本当にびっくりしてしまった。その大きな裸の男だけじゃなく、他の色々な男性の同性愛のセックスライフについてポスターもあった。私は恥ずかしくなって急いでそこから逃げた。
でも、あのポスターにあるその男の肉体は、とても強かった…私がいつも読む漫画の中の、その細い男性達とは全然違った。

徹：
そして、「ルミエール」を書いた店を見た。これも虹の色があって、たぶん同性愛と関係ある店のはずだ。でも今は何もない、新しい店だろう。どんな店か知りたくて入るのが、ちょっと楽しみだ。

ルミエール
絶賛発売中!
アールエスエス

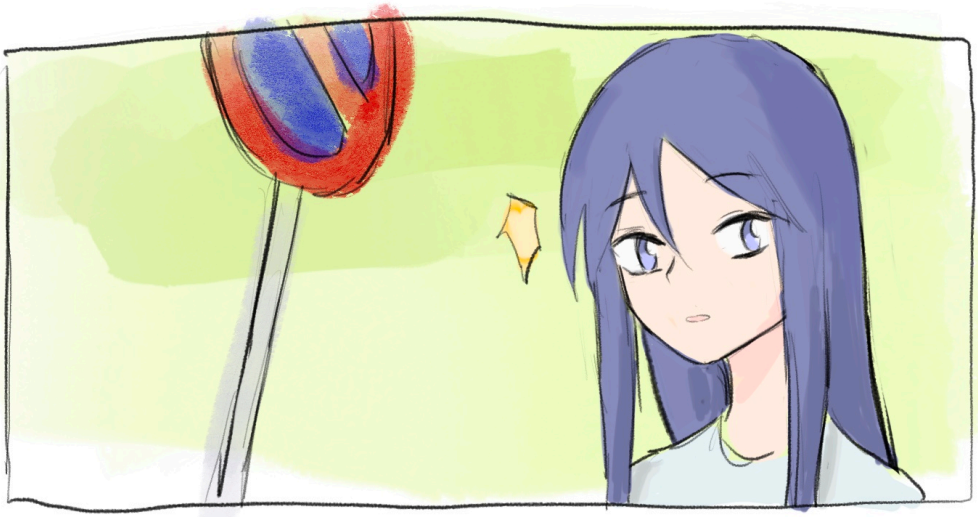
ルミエール
Bad
ボキ勃起クッキング
好評発売中

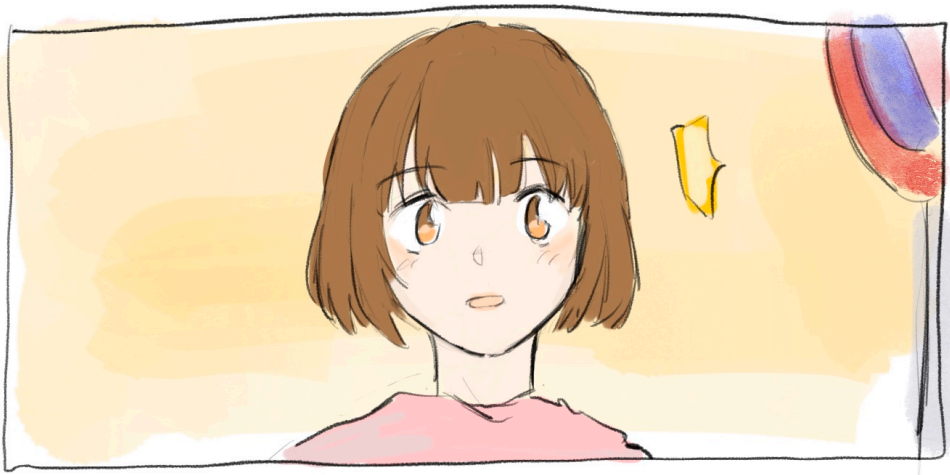


夏紀：
ちょっと疲れたから、今晩の新宿二丁目の探索はここまで終わりにした。色々なLGBTコミュニティのことを見つけられてよかった。将来、このエリアだけじゃなくて、日本全国にもっとLGBTバーが増えるといいと思う。そして、全世界で私のコミュニティーが差別化されないように願っている。
その時、黄色の文字で「Gayコンボイ」と書いてある標識を見つけて、少し古い建物に着いた。

遥：
ゆっくり、私は来る時に通った道をもどった。今日見た景色は、私に色々なことを教えてくれた。現実のLGBTQコミュニティーはやっぱり漫画と違うなあ！
そう思った時、左手には黄色の標識が見えた。「Gayコンボイって…どう言う意味？」

彻：
もう夜になった。今晩の経験は本当に自分に優しかった。初めて僕らしい人達がたくさんいることに気が付いたね。「愛は異性でも同性でもかまわない！」と思って、ある小さい金色のサインに気が付いた。





「それから、私(わたし)／僕(ぼく)が見(み)えたーー」

この混乱(こんらん)した世界(せかい)で、三人(さんにん)が会(あ)えたのだった。